



カキツバタ 群落マップ

新潟県
上越・中越版

3 林泉寺

明応6年（1497年）建立。上杉謙信にゆかりある寺院で、謙信公の墓や「宝物館」には貴重な遺品等が展示されている。カキツバタは昔から植えられており山門前の棚状になった水辺と敷地内で見られる。八重や斑入り、四季咲き（秋に咲く）も見ることができる。

上越市中門前1-1-1（上越 I.C.から車で13分）
10:00～16:00(拝観受付は15:30まで)水曜休
拝観料：小・中学生 250円 大人 500円
電話：025-524-5846



4 春日山城 史跡広場の監物堀

春日山城跡の発掘調査によって確認できた堀や土塁が復元され、中世の春日山城の面影を見ることができる広場。復元後に監物堀に植えられたカキツバタは、5月上旬が見頃。同広場の敷地内にある「春日山城跡ものがたり館」では、上杉謙信公の生涯と春日山城のなりたちについて学ぶことができる。

上越市大豆334（上越I.C.から車で15分）
電話：025-544-3728（春日山城跡ものがたり館）



1 柏崎・夢の森公園のかきつばた苑

市民ボランティアがカキツバタを育て、毎年3万本以上の花が咲く。紫一色の見ごたえは抜群。水辺に木道が敷かれているので近くで見ることができるのも魅力。自然公園の中にあるので季節のお花や自然も併せて楽しめる。園内に人気のおしゃれなカフェあり。

柏崎市軽井川4544-1（柏崎 I.C.から車で10分）
入園・駐車場無料
電話 0257-23-5214

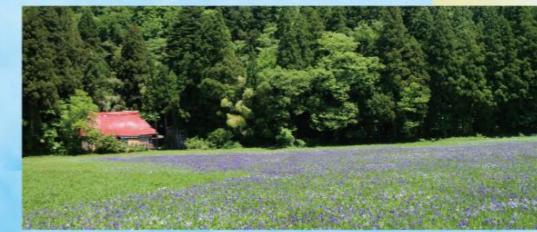


2 長岡市大積町

山あいの集落に広がる2ha弱の沼地。紫や白の花が咲き誇り新緑の里山に囲まれた一帯を彩っている。30年ほど前まで稲作が行われていたが耕作しなくなった後、沼の中心から徐々にカキツバタが増え、年々広がっている。

長岡市大積町3丁目(長岡 I.C.から車で15分)
駐車場なし(付近の神社前に広いスペースあり)
電話：0258-46-2201(大積コミュニティセンター)
管理者：大積のカキツバタを守る会

※現地は民有地であり民家も点在していて、観光地でないためトイレなどの設備は整っておりませんご注意ください。



5 新潟県立大湯水と森公園

日本海沿岸の砂丘後背地に発達した湯の自然と里山環境を学ぶことができる都市公園。園内各所で見られるカキツバタの群生は、水辺再生の取り組みとして公園サポーターと育成・管理を進めている。

上越市大湯区湯町1381（大湯スマートI.C.から車で10分・柿崎I.C.から車で15分）
入園・駐車場無料
電話：025-534-6190



アヤメ科の見分け方

いずれアヤメかカキツバタとは、どちらも美しく甲乙つけがたいという例えですが、どちらも似ていて区別がつかないという意味でも使われ、とてもよく似ています。アヤメもカキツバタも同じアヤメ科の花ですが、花の模様で見分けることができるほか、咲く時期や咲く場所にも違いがあります。

ショウブ (ショウブ科)
しょうぶ湯に使われる「ショウブ」はショウブ科の植物で、アヤメ科のような花はつきません。カキツバタが咲く頃に穂の花（肉穂花序）が咲きます。



※あやめ園や庭先に多い、大ぶりで多色な花は花しょうぶやジャーマンアイリスといったアヤメ科の園芸品種です。花しょうぶはノハナショウブを品種改良してつくられました。



カキツバタ

花びら中央の白い一本線が特徴。ノハナショウブとよく似ているがノハナショウブは花の中央に黄色い線が入りカキツバタより花期が遅い。アヤメ科の中では最も水湿を好み水辺に群生する。



シャガ

アヤメやカキツバタよりも開花期が早い。花は小ぶりです。花は小ぶりで咲いたその日の夕方にはしぼむので1日しか咲かない。人里近くの湿った林に生える。古い時代に中国から渡来したと言われている。



アヤメ

畑など、やや乾燥した所に咲く。花びらの根元にある網目のような模様が特徴。アヤメを漢字で書くと綾目・文目（織り物の織り目）で、模様が名前の由来になったとも言われている。



キショウブ

花は黄色。ヨーロッパ原産で観賞用として明治期に渡来して野生化している。葉の中脈が太く目立つ。



ノハナショウブ

カキツバタによく似ているが、赤みが強い紫色で花びら中央の一本線は黄色。花期もやや遅くカキツバタが枯れた頃に開花する。葉の中脈はキショウブのように太く目立つ。

絶滅の危機！ 湿生植物のカキツバタ

アヤメ科の中で最も水湿を好むカキツバタは、湿地に多く咲く花です。万葉集にも登場するように古来から日本人に親しまれていたカキツバタですが、その生息域の湿地は世界的に減少していて、日本でも明治・大正の頃に比べて、湿地は6割も減っています。

湿地減少の理由の多くは埋め立てによる開発です。昔から湿地は利用しにくい土地だったため、人が使いやすいように開発が早く進んでいった歴史があります。そのため、湿地で生息していた動植物の多くが絶滅危惧指定になっています。カキツバタは県内で絶滅危惧II類（VU）に指定されています。

カキツバタの自生地はそこが湿地だったことを教えてくれる場所なのかもしれません。

